

建築士 やまなし

No.83

— ARCHITECTURE YAMANASHI —



特集 建築士への胎動

～建築士を目指し、学び舎に集う若者たち～

● 目次 ●

国土交通大臣表彰を授彰して	中巨摩支部 土谷 芳仁	2
日本建築士会連合会会長表彰を授彰して	甲府支部 利根川康夫	2
日本建築士会連合会会長表彰を授彰して	石和支部 若狭美穂子	3
日本建築士会連合会会長表彰を授彰して	市川支部 渡辺 善文	3
「第64回建築士会全国大会(あきた大会)」に参加して		
青年部会副部長	遠藤 恭範・佐藤 公泰	4・5
女性部会	山本 恭子	5
特集 建築士への胎動	甲府支部副支部長 河野 広	6・7
「県民の日記念行事」の出展に参加して	北富士支部青年部長 鈴木 誠	8
職業体験講座「建築士のしごと」	甲府支部青年部長 岡 隼人	8
第55回親睦スポーツ大会に寄せて	北富士支部長 渡辺 武則	9
令和4年度山梨県地震防災訓練(北富士支部 被災建築物応急危険度判定訓練) 事務局		9
「2040 プロジェクト 10年の歩み」		10
第6回山梨県建築士の集い	実行委員長 小林 弘幸	10
県からのお知らせ		11
会員の動静		11
編集後記		12



中
巨
摩
支
部

土
谷
芳
仁

国土交通大臣表彰を授彰して

この度、令和4年度国土交通大臣表彰を去る7月11日、国土交通省本館10階の大会議室にて建設事業関係功労者として表彰の栄誉を賜りました。これは今までご支援ご指導いただいた山梨県建築士会の皆様および関係行政機関の皆様の御蔭と心より感謝申し上げます。

学生時代から数えると建築に携わって45年が過ぎようとしております。新卒での就職はオイルショックの煽りを受けて求人が殆ど無く、ゼネコンに拾っていただき現場を2年ほど経験させていただいた後、構造設計専門の事務所で5年間勉強させていただき、山梨に戻ったのは30歳を過ぎてからでした。現場を少しと構造設計しか知らずに、諸先輩方が試験監督する中で受けた建築士試験に一発合格できたのは奇跡としか言いようがありませんでした。合格と同時に士会に入会し、常盤ホテルにて開催した関ブロ青年協の山梨大会が青年部活動のスタートだったと記憶しております。構造設計が私の専門分野ですので、青年部内で木造住宅の耐震診断の勉強会を行いました。その時の診断計算シートが現在、山梨県内の無料診断と称されている耐震診断事業で使用している計算シートの基になっております。それから青年部長を経験させていただき、関ブロ青年協の大会が10都県を一巡して河口湖畔での開催まで、青年部活動の中で多くの人との繋がりや様々な知識、習得、経験をさせていただきました。

栄誉ある大臣表彰を、このように過ごさせていただいた年月を評価されたものだとすると、非常に心苦しい限りです。今後、この表彰に恥じないよう精進、努力してまいりますので、今後も皆様のご指導ご鞭撻を宜しくお願い致します。

おわりに、山梨県建築士会の益々の発展と会員各位のご健勝を祈念申し上げ、御礼の挨拶とさせていただきます。

日本建築士会連合会会長表彰を授彰して

新型コロナウイルスもいくらか落ち着きを見せ始めた令和4年10月14日、東北の地 秋田県あきた芸術劇場ミルハスにおいて、コロナ禍で中止されていた第64回建築士会全国大会あきた大会が3年振りに開催され、その折に日本建築士会連合会会長表彰を頂くことができました。心より感謝申し上げます。その知らせを受けた当初私で良いのか？私以外に建築士会活動に貢献している先輩諸兄の方が多くおいでになるのではないかと戸惑いもありましたが、前会長である雨宮名誉会長始め、多くの会員の方々に推挙していただいた結果ではないかと感謝し、有難く頂く事に致しました。心より感謝し、厚く御礼申し上げます。

振り返って見ますと、10年余り設計事務所勤めの後に独立して、45有余年が過ぎようとしています。右も左も分からず、この仕事で生計を立てて行く厳しさも知らずに、ただ夢と希望のみを抱いていた若輩者だったと思います。途方もない時間とエネルギーを使い、一つの条件に対して幾つもの解答が生まれるのが建築設計であります。又、設計費用の実務費が見通せず、一つの仕事が完成後でないとも利益率が明確にならず、ある意味ギャンブル的な要素がある仕事の為、良くこれまで生き抜いて来たと感じています。これも今までに師と仰ぐ人、自分に良い影響と刺激を与えてくれた人々に出会えたのが幸運であり、顧みると人の縁しに恵まれたこれまでかなと感謝の思いがあります。

今後も人との出会いと巡り合わせを大事にし、この業界と周囲の仲間感謝しながら人生を歩んで行けたらと願っています。また、微力では有りますが、私なりに建築業界、建築士会に、仲間と共に貢献出来るよう尽力して参りたいと思っております。有難うございました。



甲
府
支
部

利
根
川
康
夫



石和支部

若狭美穂子

日本建築士会連合会会長表彰を授彰して

この度は日本建築士会連合会会長表彰を賜り、これも山梨県建築士会会長、事務局の皆様、また周囲の人々が私を支え、導いてくださったおかげと感謝しております。13年前、女性部会設立20周年記念行事で様々な障害者・年齢の方にご協力頂いて甲府駅南側の街づくりプランに皆で取り組みました。様々な視点でご意見を賜り多くの気づきがありました。個人的にその後も障害を持った方と交流を持ち、施設調査や白杖を使った小学生との街歩き等の活動に参加させて頂きました。

私は5年程前、急に体に力が入らなくなり倒れる事があり、始めは老化現象だと思っていたのですが頻度が増し、甲府盆地が一望出来る部屋で暫く休むことになりました。昼はカーテンで遮光をしなければならなかったのも、夜から朝までカーテンを開けて夜空や夜明けの景色を楽しみました。山梨の夜明けは素晴らしく美しかったです。始めは富士山が蒼から紅に染まっていき再び蒼くなる頃に今度は南アルプス山系が輝きだす。真に美しく、この景色は大切にしなければと感じました。家に戻っても筋力が戻らない状態が続き、自分の為に家族の時間を割いてもらうのが嫌で家事や身の回りの事を自分でするのですが、動ける時には気づかなかった困難が多く、そんな時以前障害者の方と施設や街の調査をした際に「何でも自分で出来る」という要望が「皆も誰かの負担になると感じていたのかな？」と思い出し、少子高齢化の中、若い人の負担を減らす為にも自分の事は自分で出来るシステム作りが必要だと感じました。

現在の私は至って元気で、経験した事も糧にしてこれからの業務や活動に生かしていきたいと思います。

日本建築士会連合会会長表彰を授彰して

この度、令和4年度日本建築士会連合会会長表彰を授彰した事、心よりお礼申し上げます。

本来ですと全国大会で頂くはずでしたが都合上出席することが出来ませんでした。

私を推薦頂いた長田会長始め、理事並びに事務局の皆様へ感謝申し上げます。

建築の仕事に従事するに当り目標として先ず建築士をと思い、取得することが出来ました。その後、建築士会に入会させて頂き早いもので43年が経過しましたが、但忙しく建築の仕事をしてきたというだけで建築士会に貢献しているという自覚など全く無く、支部役員を長くさせて頂き支部長まで努める事が出来たことは支部役員及び会員に感謝いたします。

個人住宅、店舗併用住宅、神社の屋根替え、鳥居の修復、鳥居の再建など数多くの仕事をさせて頂き大工冥利に尽きる次第です。中でも38年前菩提寺の新築工事で、檀家大工で手懸けた仕事は、本当にこんな仕事出来るのかと思った次第でしたが、2年の歳月を掛け完成した時は感無量でした。

建築士会に於いては、ソフトボール大会がメインでその後グラウンドゴルフ大会に変わりましたが、昨年はコロナ禍の中3年ぶりに開催され参加することが出来ました。会員の皆さんに会う事ができ久しぶり大変有意義な時間を過ごす事ができました。

建築士会に入会させて頂き本当によかったと思い、建築士としての誇りを胸にこれからも微力ながら、地域貢献のため、建築士会発展のために自分なりに努力していきたいと思います。

今回の表彰の栄誉に甘んじる事無く仕事にも邁進してまいります。改めて会長始め事務局の皆様へ厚くお礼を申し上げます。

本当に有難うございました。



市川支部
渡辺善文

「第64回建築士会全国大会(あきた大会)」に参加して

第64回建築士会全国大会(あきた大会)が令和4年10月13日(木)から15日(土)の3日間、秋田県秋田市の「あきた芸術劇場ミルハス」をメイン会場として開催され、山梨県からは70名を超える建築士が大会式典や各セッションなどに参加しました。

大会式典では、本県から利根川康夫様、若狭美穂子様、渡辺善文様の3名が日本建築士会連合会会長表彰を授彰されるとともに、青年委員会セッションの地域実践活動発表会では、関東甲信越ブロック大会で最優秀賞をに輝き、その代表として参加した本県青年部会チームが発表を行い、奨励賞を受賞しました。

来年度の第65回建築士会全国大会は、令和5年10月26日(木)から28日(土)の3日間、静岡県静岡市駿河区にある「静岡グランシップ」をメイン会場として、「歴史と文化の継承～ローカルに生きる～」を大会テーマに掲げ開催される予定です。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

青年部会副部長 遠藤 恭範

第64回建築士会全国大会「あきた大会」青年委員会担当セッション「地域実践活動発表会」にて、関東甲信越ブロックの代表として、「地域実践活動」の発表をさせていただきました。当日の発表まで、いや、翌日の仙台研修中には、そこに至るまでの道程を想うゆとりを持つことが出来ませんでした。とても名誉な出来事だったと感じています。これも建築士会の先輩方が築いてきた歴史や、事務局の日頃よりのご支援があってこそ、また、関ブロ青年協の方々、青年部の仲間や活動に関わってくれた仲間がいたからこそであることを、今さらながら気づかせていただきました。

発表内容は、コロナ禍でありながらも、「ずく」を出して甲府市役所の皆さんや、士会の盟友たちと共に実践した、「地域の未来に繋がる活動」についてです。リモート開催で行われた関東甲信越ブロック長野大会と同様に動画を中心に、冒頭と結びにリアル開催という事ですので、お話をさせていただきました。関東甲信越ブロックの期待を受けていますので目標は「最優秀賞」ですから、発表に秋田の繁華街「川反」界隈で学んだ方言を用いるも、会場には方言が解かる地元の人は少なく、みごと「奨励賞」を受賞するにいたりました。

全7ブロックの代表が「地域実践活動」の発表を行いました。私が言うのも何ですが、当たり年だったのではないかと思います。皆様の「地域実践活動報告」はどれも地域に根付いた、また地域から展開した素晴らしいものでした。その中に加わって「山梨県での活動」を発表出来たことにあらためて感謝を申し上げます。

今回は貴重な経験をさせていただきましたので、今後の建築士会活動に活かして、若手に伝えて行けるように、微力ではありますが努力をして参ります。

先輩方には、青年部への引き続きのご理解ご協力をお願いし、青年委員会セッション奨励賞受賞の報告とさせていただきます。



青年部会副部長
佐藤 公泰

昨年6月に開催された関東甲信越建築士会ブロック会（以下関ブロ）青年協議会長野大会において、青年部の先輩方が最優秀賞という輝かしい成績を収められ、全国大会「あきた大会」青年セッション（以下青年セッション）での発表を行うことが決定しました。山梨県建築士会青年部会としては三十数年ぶりの発表になるとのことでしたので、この機を逃さじと、応援係として建築士会全国大会への初の参加をさせていただきました。

青年セッション発表の前日である10月13日、午後秋田市に到着し「全国建築士フォーラム in 秋田」のフィールドワークやトークセッションに参加しました。私自身、秋田への訪問自体が初の経験でしたので、新たに整備されたスポーツ練習場や芝生の駅前広場、美術館や劇場など、秋田を魅力ある街にしようとする情熱に感銘を受けました。

翌14日の青年セッションの発表では、関ブロ代表の山梨県他、全国のブロック代表がそれぞれ堂々とした発表を行いました。あまり関わる機会のない他ブロックの発表は関ブロ大会とは違った趣があり、中には予算を掛けたソフトウェア開発などの大掛かりなものもありました。地域貢献や未来の建築士育成など、各ブロック代表の発表はとても仕事の傍らに作成したとは思えないボリュームがあり、充実したものでした。各都道府県に持ち帰って利用できそうな発表もあり、いち参加者としてたいへん勉強になりました。

青年セッションの終了後は仙台へ宿を移し一泊、翌15日は震災復興のシンボルである女川駅、震災遺構である旧石巻市立門脇小学校を訪問しました。11年を経て薄れている記憶が急激に呼び起こされ、改めて何気ない日常のありがたさを再認識しつつ、帰宅の途につきました。

初参加となる全国大会やその後の見学は、業務とは違った視点で建築と向き合う良い機会になりました。「建築士が果たす役目とは何か、人々の生活をどのように支えるか」。得た知見を活かし、業務を通してその回答が出せるよう、今後も精進したいと思います。



女性部会
山本 恭子

10月13日甲府駅を出発しました。移動中の車内ではコロナ禍で会えなかった会員さん達同士で話が弾みました。

秋田駅から男鹿半島の宿に向かう途中、旧奈良家住宅を見学しました。建物の両端が前面に突き出す両中門造で、秋田県中央海岸部の代表的な大型農家住宅だそうです。また、ここには別の場所にあった明治天皇が休憩された建物も移築されていました。

翌日は寒風山へ立寄りました。回転展望台から360度の眺めは絶景でした。

大会受付後、時間があったので近くにあった安藤忠雄氏設計の秋田県立美術館に行きました。ここは平野政吉（藤田嗣治作品）をメインにした美術館でした。エントランスホールの螺旋階段は、壁からの支えや柱がなく三角形の天窗から入る自然光で素敵な空間でした。2階の大きな窓から見える千秋公園は絵のようでした。

大会が始まると、なまはげが出てきて大迫力の太鼓演奏と秋田弁にほっこりしました。今大会では、若狭さんが表彰され嬉しかったです。

最終日は数人で秋田市民族芸能伝承館を見学しました。小さな竿灯を手に乗せる体験をしましたが、バランスが取れませんでした。伝承館内部から旧金子家住宅へ見学が出来るようになっていました。屋根には防火用の天水甕がのっていました。

この建物は、江戸時代後期の町家様式を残した建物で、お店から内蔵まで1.5mの通り土間でつながっていました。

その後、赤レンガ郷土館（旧秋田銀行本店本館）を見学しました。外観と内部は設計者が違い、外観はルネッサンス様式で土台は男鹿石、1階は白い磁器タイル、2階は赤レンガでコントラストがきれいでした。内部の旧営業室は、トラス工法の大きな吹抜け空間でバロック様式になっていました。

最後に、大会会場前にあった文化創造館に行きました。この建物は旧美術館でした。館内見学をしていたら、職員の方から「この壁面に『秋田の祭り』が展示されていました。改修されてまっすぐな壁になっていますが、以前は湾曲していました。同じ頃新美術館を建てた長野県は、同じ場所に新美術館を建設したため、旧美術館は解体されてしまいましたが、私達は改修し残しました。」と説明していただきました。

たくさん歩いて疲れましたが、秋田の建物を見る事が出来て充実した3日間となりました。

建築士への胎動

～建築士を目指し、学び舎に集う若者たち～
彼らの活動を紹介します

※これは、山梨県立甲府工業高等学校・全日制建築科3年課題研究
(学びの集大成としての科目)の記録である。

甲府支部副支部長 河野 広
甲府工業高校非常勤講師

耐震診断班

指導教員：山西保久
□外部講師：松浦芳恵

日本は過去様々な大震災に見舞われており、近年でも神戸淡路・東日本・熊本大震災と大きな被害を生じている。その中で現代の建築において求められる重要な性能は「耐震性」ではないだろうか。

私たちは、最も多くの建物である木造住宅を対象とし、「耐震性」の基本計画から実際の現場における耐震工法の施工までを、一貫して探求することにより、将来私たちが創造する建築が、より強く・安全なものとなり、公共の福祉の増進に資することを、本研究の目的とした。



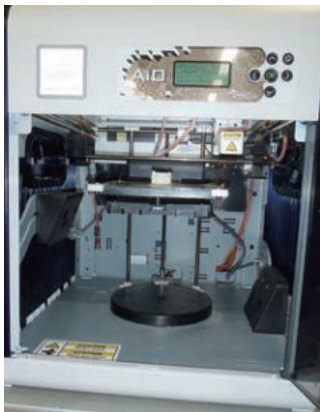
模型班

指導教員：後藤隆宏

現在注目されている技術に「レーザーカッター」と「3Dプリンター」がある。

私たちは、建築におけるその2つの技術を実際に使用し、模型を製作することによって、使用方法や活用について考察する事を研究の目的とした。

製作のテーマとしては「みなとみらい21地区の都市計画」と「ルーブル美術館」の製作とした。

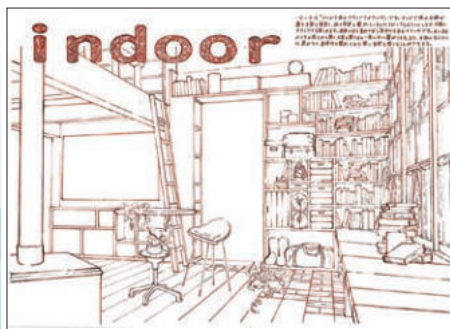


コンペ班

指導教員：王 大地

建築設計活動には、設計条件を整理し・想定するコンセプトを練り・形をイメージし・それを形にするための図面を作成し・プレゼンテーションを行い・作品を作り上げる。という重要なプロセスがある。

私たちは、コンペ（設計競技）を通じて、それらの設計活動に必要なプロセスを把握し、身に付けると共に、他者との競技という場において、己の思考を深め・設計技術を高め・表現技術の向上を図ることによって、優れた建築設計者に成長する糧とすることを本研究の目的とした。

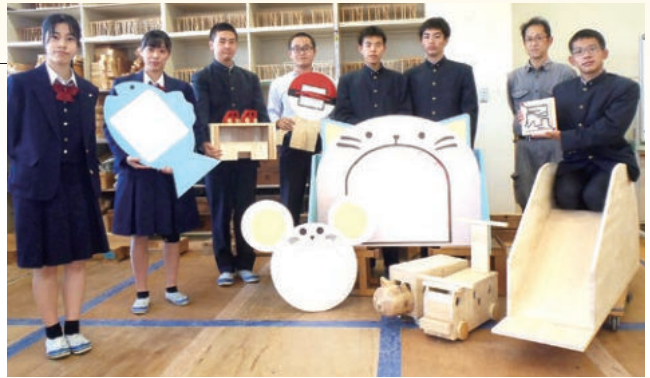


木材加工班

指導教員：玉置 宏
星野志保

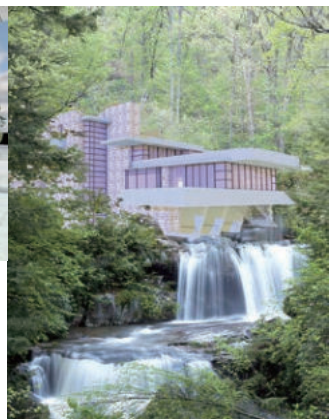
創造とは、ただ物を作れば良いものではない。依頼者の声を聞き、求めるものを検証し、創造した後にも使用者からのフィードバックを得て修正するという、相手に対しての思いやりと要望に応える、確かな技術者としての技術力と心が求められる。

私たちは、中央市子育て支援センターの協力を頂き、未就学児童を対象とした木製おもちゃの設計・製作を通して、創造の技術を磨き心を学ぶことを目的とした。

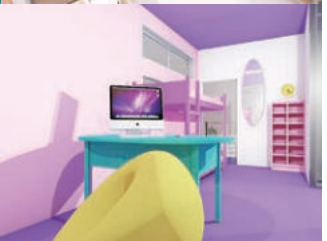
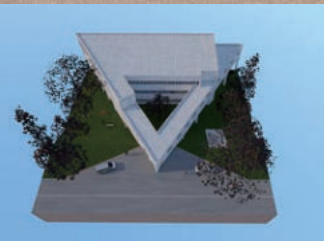
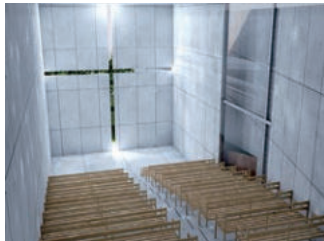


CAD 班

指導教員：神宮司啓太 □外部講師：河野 広



私たちは、CADを、コンピューターをキーとした創造手法と捉え活用方法を研究する。
内容は、設計手法の2D(Jw_cad)、3D(SketchUp)、BIM(Archicad)の習得を始め、3Dプリンター(立体造形)、ドローン(建物調査)、全天空カメラ(空間把握)とした。



「県民の日記念行事」の出展に参加して

北富士支部青年部長 鈴木 誠

昨年の秋、「県民の日記念行事」が開催され青年部でも出展をし、10月1日(土)富士吉田会場、11月20日(日)小瀬会場に参加させていただきました。昨年は3年ぶりの開催とのことでしたので、小瀬会場だけでなく富士吉田会場にも出展し、富士吉田会場では「折り紙建築」「ストローハウス」、小瀬会場では「ストローハウス」作成体験イベントをしました。私は青年部に所属しながらもなかなかイベントに参加できませんでしたので、私にとっては初めてのイベント参加となりました。

今回は特に「ストローハウス」が人気でした。「ストローハウス」はゼムクリップを繋げストローに差し込み、簡単な家の模型を作りながら、家を強くするためにはどうすればいいのかと勉強することもできます。大人の私自身、楽しく作成できるものです。

未就学児の参加が多くあまり難しい話はできませんでしたが、真四角にしたストローの枠に斜めにストローを入れるだけ(筋交い)で枠がグラグラしない丈夫なものになると理解してくれたと思います。付き添いで来られた親御さんも、「形になっていく楽しさと完成した時の達成感が味わえているようで良かった」とおっしゃっていた方が多く、参加した私も子供たちの感性に驚かされ、共に学んだ良い経験となりました。

また、両会場ともにイベント時間いっぱいまで子供たちが集まり、途中ゼムクリップが不足するなど少々トラブルもありましたが、非常ににぎやかな楽しい出展となりました。

前述のとおり初めてのイベント参加でしたが、学ぶことも多く横のつながりも密なものとなり、青年部での仲間の大切さを感じる非常に有意義な体験でした。これからも建築士会を通していろいろ参加していきたいと思います。



職業体験講座「建築士のしごと」

甲府支部青年部長 岡 隼人

建築士の仕事が「子どものなりたい職業ランキング」上位であるとの嬉しい理由で、「建築士のしごと」講座を昨年も小中学生を対象に開催をしてご好評を賜りました。講座には多くの応募があり、改めて人気と期待の高さを感じました。講師陣は青年部と女性部の計14名で務めました。

当日の講座前は、私たち建築士が業務で行っている仕事内容(図面、模型、CG等)を展示していたので、受講者が関心を寄せていました。講座内容は建築士のしごとについて説明を行い、空間についてスケール感覚を養ってから、「自分が住みたい家」をテーマに、各々が思い描く「夢」で、平面図を作図することで「形」にしていきました。

最も身近で想像しやすい住宅をテーマにしましたが、子どもの夢には様々なものがあり、夢を言葉に表す段階では、音楽ルームや星空が見える浴室等、各々が個性的な想像をしていました。言葉に表した想像をエスキスする段階では、戸惑いながらも講師陣のサポートを受けながら表現してくれました。実際に思い描く夢を図面にしていくプロセスでは、設計の醍醐味を体感してもらえたと思います。初めて手にする三角スケールを使い、夢中で立ち上がりながら作図する姿もありました。完成図面をプレゼンテーションしてもらおうと、全ての室から中庭を眺めることができる「中庭のある家」や「建築家として活動するワークスペースがある家」など素晴らしい作品を発表してくれるとともに、将来は建築士になりたいと力強く宣言してくれる子どもがいました。

限られた時間でしたが、多くの参加者が作品を完成させ、輝いた目と充実した表情をみせてくれました。純粋に夢を思い描く姿に、講師を務めた私も初心の大切さを改めて感じさせていただく機会となりました。

「建築士のしごと」講座受講者の中から、将来一緒に私たちの街を創る建築士の仲間が誕生し、より素晴らしい地域に発展する「夢」を願いながら今後も活動を行ってまいります。



第55回親睦スポーツ大会に寄せて

北富士支部長 渡辺 武則

コロナ禍のもと、延期・中止されていましたが第55回親睦スポーツ大会が3年振りに、去る10月29日(土)、北富士支部の担当で鳴沢村の生き生き広場にて開催されました。

この度の開催にあたっては、本会の福祉委員会において慎重に審議され、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、従来の半分の日程での開催となりましたが、10支部・26チームに女性部・青年部・事務局を加えた29チームでの開催となりました。

開催担当支部といたしましては、新型コロナウイルス感染防止対策はもちろんのこと、次に心配されたことが開催当日の天候でした。

以前、同会場にて北富士支部担当の大会が開催された際には、前日に大雨が降りましたが当日早朝には嘘のように雨も上がり、大変に水はけのよい天然芝のグラウンドで開催できたことを思い出し、「北富士支部は晴れ集団」、絶対に晴れると信じて準備してきました。

そんな思いが叶い、当日は晴天の上に、数日前に一早く降った雪で白化粧された富士山と北麓の絶好の紅葉のなか、ご来賓の県建築住宅課長大澤光彦様をはじめ、皆さま方をお迎えすることができ、短縮日程ではありましたが親睦が深められた大会となりました。

結果は、優勝・都留支部、準優勝・中巨摩支部、3位・身延支部となりました。

各チームを見て思う事は、我々の業界も高齢化の波が一段と高まったということですが、女性部、青年部も頑張っています。今後もこの大会が引き続き開催され親睦が深まることを願うとともに、本会はもとより各支部の皆さまにはご参加、ご協力いただき、深く感謝申し上げます。



担当した北富士支部の皆様



優勝した都留支部の皆様



選手宣誓

令和4年度山梨県地震防災訓練

(北富士支部 被災建築物応急危険度判定訓練)

事務局

山梨県地震防災訓練が11月6日(日)に西桂町で開催され、その中で「被災建築物応急危険度判定訓練」が行われました。この訓練は、県、西桂町、建築士会による合同訓練で、建築士会からは北富士支部の渡辺支部長様他10名の判定士が参加しました。

当日は、午前9時に西桂町きずな未来館に集合し、県担当者から座学による応急危険度判定の講習を受けた後、3班に分かれ、空き家となっている町内の3棟の既存木造住宅の応急危険度判定を実施しました。判定作業では、行政が常備している判定用資機材を用いながら、2人1組体制で、目視による屋根・外壁・基礎等の構造体の状況や落下物の危険度などを調査するとともに、下げ振りによる建物の傾斜等を測定することで総合的な危険度を判定しました。判定結果は「判定調査表」に記入し、所有者等に建物の危険性を周知するため、「調査済(緑色)」「要注意(黄色)」「危険(赤色)」の3種類に色分けされた「判定ステッカー」を建築物の目立つ場所に貼り判定訓練は終了しました。北富士支部の皆様ご苦労様でした。(※ 来年度の訓練は「昭和町」で開催予定です)



「2040 プロジェクト 10年の歩み」

私達 2040 プロジェクトメンバーは、2011 年より昨年度まで 10 年間地元に住み地元で働く私たちが、地域のまちづくりに対して理想的な目標に向かって一つ一つ提案を行い、行政機関、地元財界団体、大学研究室や専門家たちとも連携し、その実現に向けて活動してきました。

2040 プロジェクトは『種まくプロジェクト』であったと思っています。

今回それをテーマとして

10 年間の歩みに対し " 私達は「街づくりの種」を蒔きます。あなたは？ " とこれまでの提案に対して展示で問いかけさせて頂いています。

今後の歩みに対し " 私達は「街づくりの種」を蒔き続けます "

決意も新たにスタートし、共に「種をまく人」たちに呼びかけます。

今回この展示にて、10 年間の歩みの記録と、今後の 10 年の歩みの目標を、多くの方に見て頂き、ご意見やご感想、ご提案を賜り、これからの励みにしてゆきたいと思っています。(展示の最後にアンケートの記入をお願いします。)

又、3 日間の開催中に甲府工業高校建築科の生徒及び山梨県立大学の学生たちの協力を得て『こうなったらいいね " 山梨 "』のテーマでワークショップを行う予定です。ぜひ傍聴して頂いて若者達の考えを見聞きしてください。

最終日は、パネルディスカッションも開催します。「種をまく人達」の思いや熱量を感じ共感いただけると、開催した私達も幸せを感じます。

日 時 : 令和 5 年 2 月 20 日 (月)・21 日 (火)・22 日 (水)

時 間 : 午前 9 時から午後 6 時

場 所 : 県立図書館イベントホール

入場無料

山梨の設計 4 団体代表	(一社) 山梨県建築設計協会会長	佐野 正秀
	2040 プロジェクト リーダー	進藤 哲雄
	イベント総括 (プロジェクトサブリーダー)	丸茂 邦仁

問合せ : 055-232-5770 (設計協会)

第 6 回山梨県建築士の集い

『第 6 回山梨県建築士の集い』を令和 5 年 2 月 25 日 (土) に山梨県生涯学習推進センター (山梨県防災新館 1 階) で開催いたします。

青年部では実行委員会を立ち上げ、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底することで、会場開催ができることを期待し準備を進めています。

山梨県内で、建築士による様々な分野の取り組みや活動を学び、交流する機会としてこれまでも開催を重ねてきました。

例年、第 1 部として各支部による地域実践活動発表を行っていますが、回数を重ねるごとに発表内容のレベルがアップしていると感じます。それが、昨年の関プロ青年協長野大会における第一分科会での最優秀賞受賞という結果として表れ、それを受けて秋田県での全国大会における青年委員会セッションでの発表、奨励賞受賞につながったことはとても喜ばしいことと感じています。

また、第 2 部として建築士試験合格者への記念品贈呈式および工高生製図技能検定成績優秀者表彰式を予定していますので、新しく建築士となった仲間やこれから建築士を目指そうとする高校生にエールを送ってあげてください。

この『建築士の集い』が建築士同士だけでなく、これから建築士を目指そうとする未来の建築士をも『同志』としてつなぐ架け橋となれるよう青年部一同努力していきますので、是非、多くの方々のご参加をお願いいたします。

日時 : 令和 5 年 2 月 25 日 (土) 13:30 ~ 16:30 (予定) 終了後懇親会を予定

場所 : 山梨県生涯学習推進センター (山梨県防災新館 1 階)

内容 : ・第 1 部 地域実践活動発表

・第 2 部 建築士試験合格者への記念品贈呈式および工高生製図技能検定成績優秀者表彰式

・第 3 部 トークセッション「建築士たちの一日の仕事とは」

入場無料

※最新情報はホームページにてご確認ください。

<https://seinen.ykenchikushi.org/yamanashi>

実行委員長 小林弘幸